

おい○○、さすがにその色はまずいだろ・・・学年主任になんて言われるか・・・

えーいいじゃん。私バカじゃないよ？

そういう問題じゃなくてな・・・

でも先生は庇ってくれるでしょ？

う・・・

先生が庇ってくれないなら、

私もう先生の催眠に掛かってあげない。

それに催眠のこと、アコ達に言っちゃうかも。

そ、それは・・・！

どうするの、早く決めて。

・・・いいだろう。何とかする。

頑張ってね。じゃあ保健室行こ。掛けたいんでしょ？



みつつ数えると、もっと深いところに堕ちていく……
さん……にい……いち……ぜろ。
ん……

……催眠に掛かるのはどんな気分だ？

……はい……頭の中……ふわふわして……とてもきもちが良さ……

こいつ、普段は俺を手のひらの上で転がそうとする癖に
こういう時は素直に掛かるんだよな……

○○、もしかして俺に催眠を掛けられたいのか？

ん……はい……先生に催眠……掛けられたいです……

……へえ、らしいこと聞いたな……



まったく、○○が俺の催眠にはまってるなんてな。

じゃあこの催眠アプリも効いてくれるよな？

○○、この画面をじーっと見るんだ。

はい……

あ、♡
あ、♡

あ……♡

す……♡
す……♡

も……♡
かけて♡

い……♡

これでもっと俺の催眠が好きになったよな。

はい……先生の催眠……好き……

もっと私を先生でいっぱいにしてください♡

ん……♡